

Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

最善のがん薬物療法の実践を目指して



国立がん研究センター

薬剤師レジデント がん専門修練薬剤師募集 (令和2年度)



国立研究開発法人

国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>

- 2 沿革／設立の目的とその使命
- 4 薬剤師レジデント制度について
- 5 薬剤師レジデント研修過程の内容
- 7 研修に関するQ&A
- 8 チーム医療に貢献する薬剤師
- 10 研修スケジュール
- 11 薬剤師レジデントの生活
- 12 薬剤業務
- 14 がん専門修練薬剤師の創設
- 16 募集要項(薬剤師レジデント)
- 18 募集要項(がん専門修練薬剤師)
- 20 薬剤師レジデントより
- 24 がん専門修練薬剤師より
- 27 交通情報

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センターは、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。



設立時の建物



外来診療棟竣工(昭和53年)



研究棟竣工(昭和56年)



東病院と臨床開発センター



中央病院新棟竣工(平成30年)

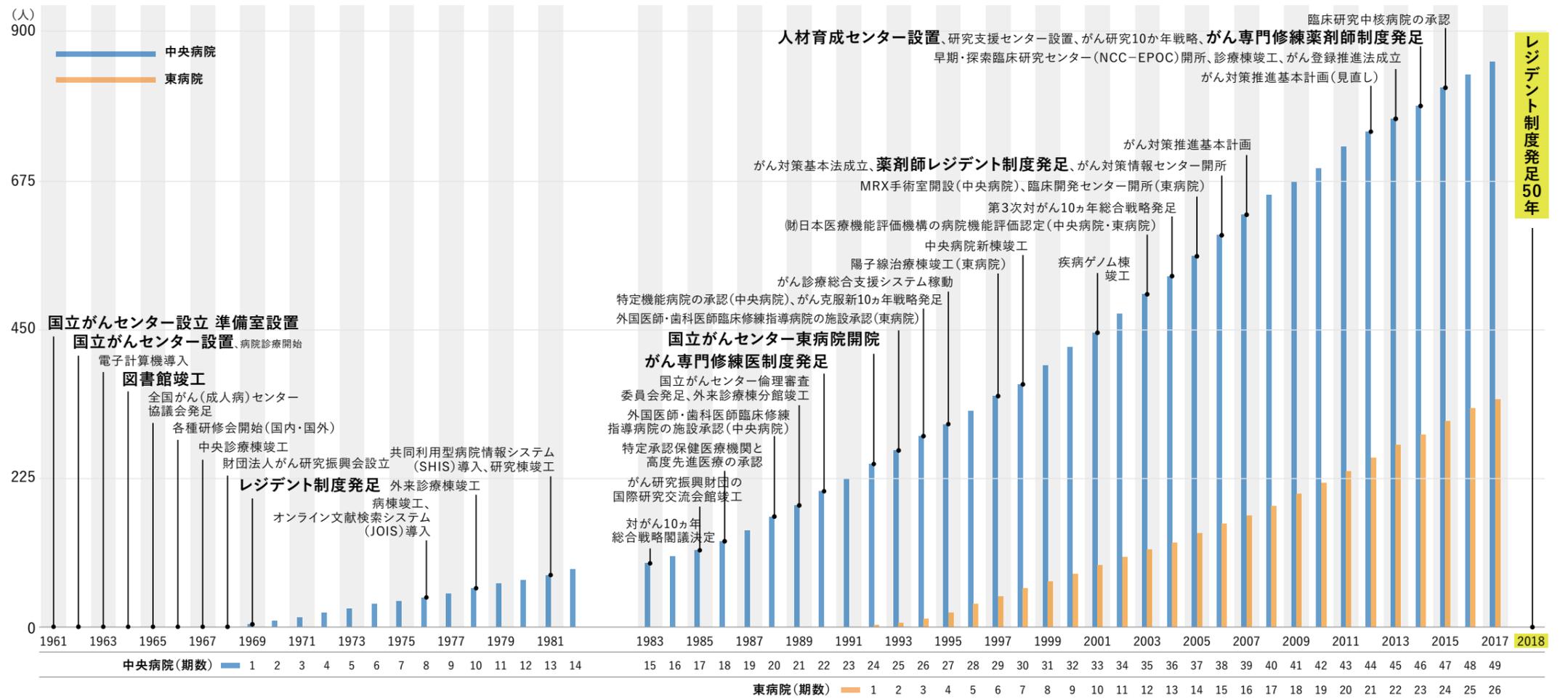


診療棟(がん予防・検診研究センター)



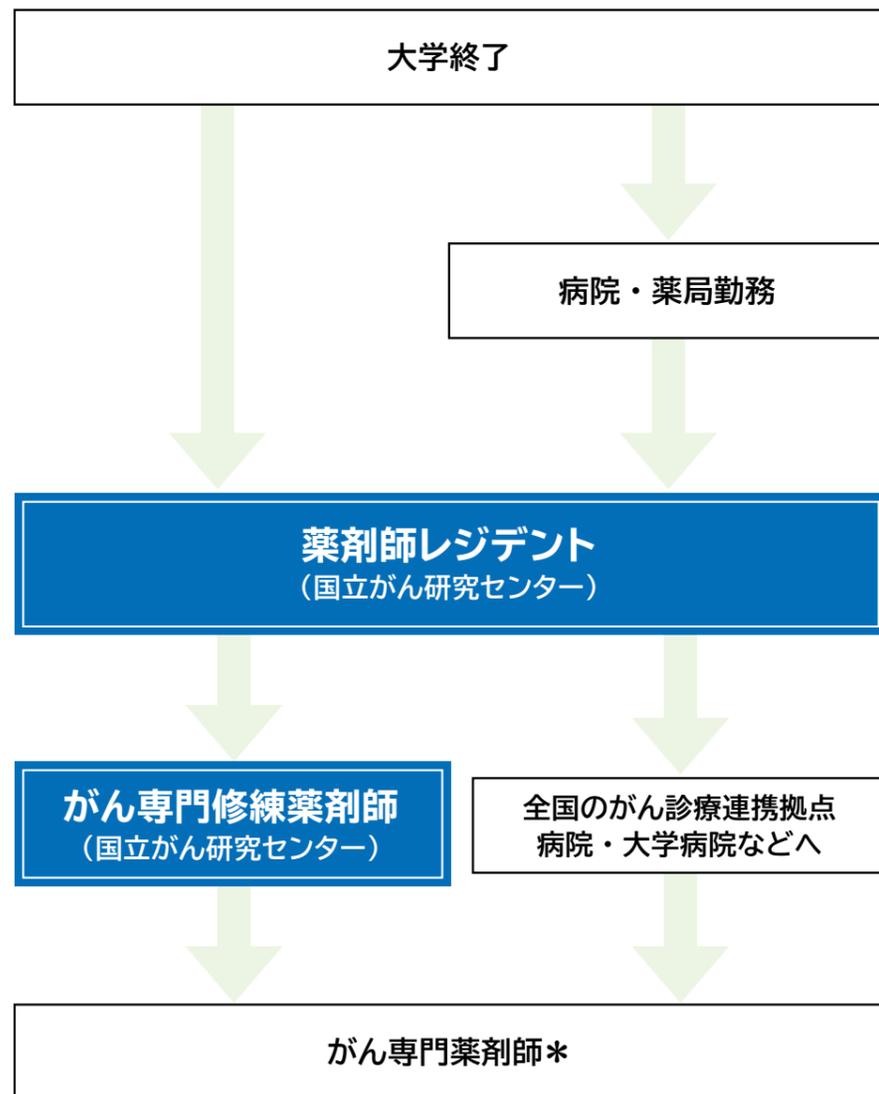
「癌」の文字から「疝」(やまいだれ)を取り除き「癌」とし、それを図案化したものです。昭和45(1970)年
 シンボルマークの内側の3つの輪は、「1. 世界最高の医療と研究を行う」「2. 患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、「(1) 臨床」「(2) 研究」「(3) 教育」を表しています。外側の大きな輪は「患者・国民の協力」を意味します。

レジデント制度50年のあゆみ



薬剤師レジデント制度について

「がん(悪性新生物)」は、1981年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは1962年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006年に薬剤師6年制教育が開始されると同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせ、今年で14年目を迎えます。薬剤師レジデント制度では、3年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての3年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、11期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、さらに多くの有為な人材が不可欠であり、志ある薬剤師がこの道を目指して頂くことを期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修，50症例の経験

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision：臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界最高峰のがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

(例：消化管内科)

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ (Natural Course) が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記1～6をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBMの手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる Medical Oncology Conference、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

3年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は平成30年度に行われた研修の日程表です。

	講義日	講義内容	講師(敬称略)
1	1/17	精神腫瘍	精神腫瘍科医師
2	1/24	胃癌(外科治療)	胃外科医師
3	1/29	食道癌(外科治療)	食道外科医師
4	1/31	がん薬物療法の実践②処方提案の実症例(皮膚、HFS)	がん専門薬剤師
5	2/1	抗がん剤の臨床薬理(PK/PD)	がん専門薬剤師
6	2/5	婦人科癌(化学療法)	腫瘍内科医
7	2/6	頭頸部癌	頭頸部外科医
8	2/7	放射線治療(IVR)	放射線診断医
9	2/8	生物統計の基礎	生物統計家
10	2/13	がんと総合医療(がん薬物療法に伴う口腔の有害事象:その対応)	歯科医
11	2/15	皮膚腫瘍	皮膚腫瘍科医
12	2/18	Pharmacogenomics 研究最前線	研究所 研究員
13	2/19	B型肝炎、AIDS、梅毒など感染症再燃予防のエビデンス	認定薬剤師
14	2/20	肝・胆・膵癌(化学療法)	肝胆膵内科医
15	2/21	がん疼痛治療	がん専門薬剤師
16	2/22	大腸癌(外科治療)	大腸外科医
17	2/26	造血器腫瘍(悪性リンパ腫)	血液腫瘍科医
18	3/4	胚細胞腫瘍	腫瘍内科医
19	3/5	乳癌(化学療法)	腫瘍内科医
20	3/6	骨腫瘍	骨軟部腫瘍科医
21	3/7	原発不明癌	腫瘍内科医
22	3/11	がん薬物療法の実践③処方提案の実症例(血液)	がん専門薬剤師
23	3/13	泌尿器癌(化学療法)	腫瘍内科医
24	3/15	肺癌(外科治療)	呼吸器外科医
25	3/18	がん薬物療法の実践①処方提案の実症例(消化管)	がん専門薬剤師
26	3/19	脳腫瘍	脳脊髄腫瘍科医



研修に関する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年14期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、10年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A 3年間のカリキュラムとなっています。2年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、3~4ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。3年目は希望の診療科で終局薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として独り立ちできるまでに成長します。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 非常勤職員手当の規定に基づきます。平成30年度見込み支給額は約300万円です。部屋の空き状況によりですが、病院に直結した単身宿舎(有料)を借りることができるため、家賃負担が軽減されています。

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は1日150件を超え、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間100を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には2年間のがん専門修練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などならかの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年1回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていただきますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

薬剤師レジデント・がん専門修練薬剤師



血液/造血幹細胞移植科



消化管内科



脳脊髄腫瘍科



緩和ケア



乳腺・腫瘍内科



呼吸器内科



骨軟部腫瘍科



肝胆膵内科



小児腫瘍科



泌尿器後腹膜腫瘍科

薬剤業務

■ 調剤業務



- 入院調剤
- 外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。



- 麻薬の使用法について説明
- 院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務



- 注射薬調剤
- レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。



- 抗がん剤混合調製

■ 薬剤管理指導業務

- 乳腺・腫瘍内科
- 消化管内科
- 呼吸器内科
- 緩和医療科
- 血液化学療法科
- 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
- 肝胆膵内科
- 通院治療センター
- 小児腫瘍科
- 骨軟部腫瘍科
- 泌尿器・後腹膜腫瘍科



■ 医薬品情報管理業務



- 医薬品情報の収集・整理
- 治療薬物モニタリング
- 情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。



- レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画



- 感染対策チーム：ICT
- 褥瘡対策チーム
- 栄養管理対策チーム：NST
- 外来がん薬物療法患者サポート
- 緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務



- 薬剤師外来
- 外来化学療法ホットライン
- 通院治療センター

■ 医療連携



- 業連携
- 地域がん医療研修会

■ 治験管理業務

- 治験管理室との連携
- 治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

- 医薬品在庫管理
- 麻薬管理
- 手術室医薬品管理

■ 製剤業務

- 一般製剤調製
- 院内特殊製剤調製
- 製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育6年制が導入された2006年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を2014年4月に開始することとしました。

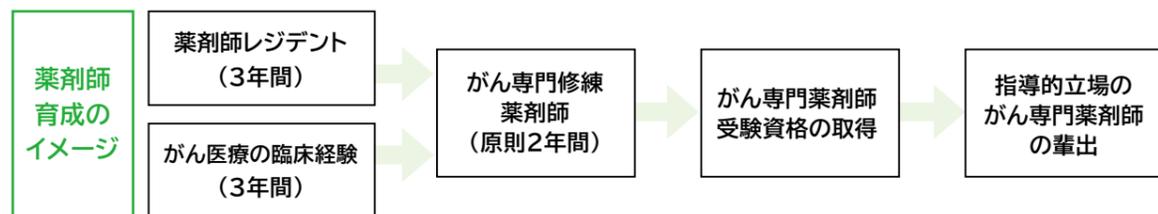
今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の5年間の研修実績を積むことが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント1年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートナーでもあります。Clinical Questionを臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成26年度より開始）



■各コース紹介

●薬物動態学／薬力学（PK／PD）臨床研究コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の3本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PKが直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向きPK／PD研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきたPK／PD研究のノウハウにPharmacogenomicsの概念を加えたリバー

ス・トランスレーショナル・リサーチ（rTR）に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資するrTRを是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3
固定診療科にてチーム医療の実践																						
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露																						
臨床研究プロトコル作成																						
倫理審査委員会にてプレゼンテーション																						
臨床研究																						
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※																						

●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間5,000人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる α （プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの α が吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米ではBMT Pharmacistは難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けないことを一緒に示していきましょう。



●支持療法コース（東病院）

国立がん研究センター東病院は24床のPCU病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和を目指した薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームやPCU病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。研究を支援するツールとしては高度な分析機能を有するLC-MSMSを所有しており、オピオイド等の薬物血中濃度測定や電子カルテ情報を用いた臨床研究が可能です。また、精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々な医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。



●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膵がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に5大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となつていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。



募集要項 (中央病院・東病院)・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成22年3月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、令和2年3月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数 (予定)

中央病院 6名
東病院 6名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
- II. 締切日 令和元年6月24日(月) 必着
- III. 必要書類
- a. 願書 (所定様式)
 - b. 健康診断書 (所定様式)
抗体検査確認表 (所定様式)
 - c. 薬剤師免許の写し (A4判に縮小)
 - d. 大学の卒業証明書または大学院修了書の写し (A4判に縮小) (薬学部生は、成績証明書)
 - e. 在職証明書 (大学院の在籍証明書も可)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院) 令和元年7月10日(水) 午前9時から
(東病院) 令和元年7月11日(木) 午前9時から

6. 選考会場

(中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
(東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

令和元年8月中旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

非常勤職員 (薬剤師)

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程 (中央病院、東病院) に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
(日当直または補助業務を含む)

10. 処遇等

- I. 手当 非常勤職員手当の規定に基づき支給されます。
(令和元年度見込総支給額 約300万円)
- II. 保険 社会保険 (厚生年金・雇用保険) に加入します。
- III. 宿舍 (中央病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舍 (有料) を利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

(中央病院) 令和元年5月14日(火) 14時~16時
(東病院) 令和元年5月15日(水) 14時~16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属 (施設名または大学名)、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

募集要項 (中央病院・東病院)・がん専門修練薬剤師 (チーフレジデント)

1. 応募資格

- (1) 国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または令和2年3月に同研修を修了見込みの者
- (2) (1)に相当する学識を有する者で、令和2年4月1日時点で原則として3年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数 (予定)

中央病院 2名
東病院 2名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
- II. 締切日 令和元年10月中旬 必着
- III. 必要書類
- a. 願書 (所定様式)
 - b. 健康診断書 (所定様式)
 - c. 上司または指導者の推薦書 (所定様式)
 - d. 薬剤師免許の写し (A4判に縮小)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院) 令和元年11月頃
(東病院) 令和元年11月頃

6. 選考会場

(中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
(東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

令和元年12月初旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

非常勤職員 (薬剤師)

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程 (中央病院、東病院) に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。(日当直または補助業務を含む)

10. 処遇等

- I. 手当 非常勤職員手当の規定に基づき支給されます。
(令和元年度見込総支給額 約400万円)
- II. 保険 社会保険 (厚生年金・雇用保険) に加入します。
- III. 宿舍 (中央病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舍 (有料) を利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

(中央病院) 令和元年5月14日 (火) 14時~16時
(東病院) 令和元年5月15日 (水) 14時~16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属 (施設名または大学名)、連絡先を事前にお知らせください。

※8月23日 (金) にオープンキャンパスを予定しています。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp



国立がん研究センター中央病院
吉村 航 (千葉県出身)

私が当院の薬剤師レジデントを志望いたしましたのは、日本人の死因の第一位であるがんの領域で薬剤師として貢献していきたいと考えたためです。患者様に最適な医療が提供できるようがん医療に関する高い専門性を習得し、また昨今著しい進歩を遂げるがん医療の最先端を学ぶためにも当院は最適であるように思います。

レジデント制度としてしっかりと教育カリキュラムが組まれており、研修や勉強会では各診療科の医師や先輩の薬剤師の先生方からご講演をいただけるので、自分の勉強だけでは触れることのできないような専門知識に触れることができます。またがんを専門に扱う施設ですので日々の業務の中にもがん医療の勉強になるようなヒントがたくさんあることも大きな魅力ではないでしょうか。学ぶことが多く忙しい毎日ですが、より良いがん医療を患者様へ提供できるよう一層精進していきたいと思っています。



国立がん研究センター中央病院
近江 一太 (千葉県出身)

私は、病院実習の時、経口抗がん剤の内服投与を続ける患者さんや、定期的に入院して長く抗がん剤投与を続けていらっしゃる患者さん、末期の緩和的な治療に取り組まれている患者さんらに接したことがきっかけでがん薬物療法に興味を持ちました。そこでは、単純な抗がん剤の投与のみ行われるのではなく、信頼性の高いエビデンスに則って、有効性の高い投薬スケジュールのもと、制吐剤や鎮痛薬などの支持療法薬と組み合わせて使用されており、がん薬物療法を受けられる患者さんのQOLを維持するためには、がん医療に精通した薬剤師が不可欠であることを実感致しました。そこで、私は、がん薬物療法の投与設計の背景にある理論を一から学び、出来るだけ多くのがん患者さんたちが副作用の少ない安全な薬物療法を受けられるようにしたいと考え、レジデントを志望しました。国立がん研究センターの3年間を爽りあるものに出るように日々、努力していきたいと考えています。



国立がん研究センター中央病院
寺田 公介 (三重県出身)

がん領域は進歩が著しく安全で効果的な使用のためには高い専門性が重要です。私は当院説明会で「日常臨床あってこそその臨床研究であり、臨床研究あってこそその臨床能力向上」という話を聞き、がん領域の専門性に加えて、臨床現場での疑問のタネを研究に繋げ、治療のエビデンスを創出できる薬剤師になるためには最適な進路だと考え、中央病院レジデント制度を志望しました。薬剤師レジデントのメリットは3年間で様々な部署を経験できることだと思います。また様々な講義研修や勉強会、年1回の研究報告会など充実したカリキュラムが魅力的だと思います。そのぶんレジデントの日々は多忙ですが、裏を返せば多くの経験値を得ることができるということです。がん領域の臨床・研究・教育として最高の環境が整っている当院で共に学んでみませんか。



国立がん研究センター中央病院
東 郁子 (神奈川県出身)

私は、大学の実務実習でがん専門薬剤師の先生に指導していただき、透析と卵巣がんの治療を併用されている患者さんを担当しました。がん領域における薬学的な知識の重要性を実感したこと、また指導してくださった薬剤師の豊富な知識とより良い治療を提供するために尽力する姿勢に憧れを抱いたことが当院のレジデントを志望したきっかけでした。知識も経験もない状態で働き始めて一年が経ち、大変なこともあります、尊敬する先輩方や高い志を持った同期に囲まれて最先端のがん医療を学ぶことができる、とても恵まれた環境にあることを日々実感しています。また、研究のサポート体制が整っており、一年目から業務と並行して研究活動を精力的に行うことができるのも大きな魅力だと思います。私はレジデントを通してがん医療に関する専門的な知識と研究能力を併せ持つ薬剤師に成長し、がんに苦しむ患者さんのより良い治療に貢献できるよう今後も精進していきたいと考えています。最先端のがん医療に興味がありましたら、当院のレジデントと一緒に学んでみませんか。



国立がん研究センター中央病院
筒井 佑紀 (福岡県出身)

私は、病院実習でがん治療の副作用に苦しむ患者さんと携わった経験から、がんの支持療法について学び患者さんを支えられる薬剤師になりたいと思い当院を志望しました。当院では日々の業務だけでなく、講義研修や1年目レジデント向けの病棟前勉強会、症例報告会、研究ゼミ、院内の勉強会に参加することができ、がんについて学べる機会が非常に多いと感じています。また、レジデントには教育担当制度があり、がん専門薬剤師有資格者の先生から日常の疑問点や研究等について直接指導を受けることができます。特に、臨床研究に関しては全く知識が無い状態でも、論文の読み方からデータのまとめ方まで指導して頂けるため、レジデント報告会では学会発表と同等の発表ができます。私は支持療法に関する研究を行い、自分の研究が患者さんのQOL向上につながることを実感できました。このように、多くの経験を積むことができる点が薬剤師レジデントの魅力の一つだと思います。興味のある方はぜひ見学に来てみてください。



国立がん研究センター中央病院
藤木 健行 (東京都出身)

私はがん医療を行っていくうえで不可欠な知識、技能を習得したいと考え当院のレジデントを志望しました。最初の1年間は調剤室、注射室での業務を通しながら薬剤部の業務の流れ、病院内での役割について学びます。そのかたわらで抗がん剤の投与量や適応疾患などについても勉強することができ、さらには治療薬の調剤、調製などの業務にも携わらせていただきました。また自分の興味のある分野に関して、詳しい先生方のご指導のもと臨床研究にも積極的に取り組むことができました。研究や学会発表はがん専門薬剤師等の認定取得のためには必須であり、そのノウハウを経験豊富な先生方から教わりながら実際に自分の手で研究を進めるのは他の病院ではなかなかできないことだと思います。いずれもがん医療に向き合っていくためには今後必要となる要素であり、薬剤師として早い段階から関わることができたのは大きな財産となると考えています。



国立がん研究センター東病院
村田 志帆 (大阪府出身)

患者さんの支えになる薬剤師になりたい。そのために、薬と治療を理解したい。そんな漠然とした思いからレジデントを志望しました。

化学療法薬は副作用を許容しているところが、他の薬との相違点だと思います。だからこそ、薬剤師のマネジメントは重要だと考えています。患者さんと向き合い、他の医療者と連携しながら、問題をひとつひとつ解決していく。小さなことの積み重ねが、患者さんの今の生活を支え、将来の治療の選択肢を残すことにつながると思います。

レジデントになって以来、化学療法を行うことは本当に患者さんのためになっているのかと悩むことも少なくありません。そんな時、一緒に悩んでくれる同期や先輩方、本気で考えてくださる先生方が近くにいることが大きな支えとなっています。薬ではありませんが、東病院のレジデントになったことを後悔したことはありません。もっと多くの事を吸収して、患者さんに頼られる薬剤師になりたいと思います。



国立がん研究センター東病院
中村 仁美 (長野県出身)

関東にある国立がん研究センターという所は、関西にいた私からすると遠く、見かけるのは常に授業資料の中でした。名前だけ知っている病院に、レジデントとして学びたいと思い立ったのは「がんセンターに来る人の中で楽しい気持ちの人なんていない。1つでも『あの薬剤師さんにこの話をしよう』と思って来てもらいたい。」という先生の言葉がひどく印象に残ったためです。最先端の医療を担う“国立のがんセンター”は、私にはどこか敷居が高く、別世界の様な存在だったのですが、医療を通して患者さんと会うことを何よりも大切にしている病院だと感じた瞬間でした。薬剤師1年目として担当患者さんを持つ今、学ばなければならない事は山のようにありますが、時間を割いて指導して下さる先生方、また同じ意識を持つ同期に恵まれ、学ばせて頂ける環境に感謝する毎日です。中村さんにこの話をしようと思ってもらえるような薬剤師になりたいと思い励んでおります。



国立がん研究センター東病院
藤本 泰輔 (北海道出身)

私はがん医療の専門病院である東病院にて薬剤師として専門性を高めていきたいと強く思い、東病院の薬剤師レジデントを選択しました。最初の薬剤師レジデントのイメージは「辛い」「厳しい」とマイナスイメージが先行していましたが、見学時そんなマイナスイメージを払拭してくれるほど現場で働いて

いた薬剤師レジデントの先輩方が生き生きと業務に励んでおり、私は東病院の薬剤師レジデントに心を決めました。今ではその一員として業務に励んでおりますが、忙しさの中にも充実感があり、やはり自分の選択に間違いはなかったと感じています。今後は薬剤師レジデントとして薬剤師間ではもちろんのこと医師や看護師などの他医療職、なにより患者さんに信頼して頂けるよう日々努力していこうと思っています。3年間という長くも短いこの限られた時間で自分の可能性をどこまでも広げられるよう精進していこうと強く思っています。



国立がん研究センター東病院
馬場 楓 (神奈川県出身)

私が当院を志望したのは、病院実習で肺癌の患者さんを担当したことがきっかけです。適切なマネジメントがあれば防ぐことが出来たはずの抗がん剤による下痢の遷延、脱水、緊急入院を経験しました。当院は、ホットラインや通院治療センター、外来同席などで患者さんの状態を薬剤師がきめ細やかに確認すること

ができます。またレジデント制度の歴史は長く、どの施設にも追随を許さないほどの癌に関わる知識、臨床経験を積めると考えています。がん患者さんに対して最も適した治療を提供できる力が身につくのではないかと考えての入職でした。実際未熟な自分にとって、先生方の熱心なご指導や、他職種の方々との関わりの中での学びは多く、充実した毎日です。レジデントの3年間は瞬く間に過ぎると、どの方々も口を揃えます。限られた時間の中でより患者さんに貢献し、必要とされる薬剤師になれるよう日々精進していきたいと思



国立がん研究センター東病院
立松 洋平 (愛知県出身)

私が東病院の薬剤師レジデントを志望した理由は、臨床現場に成果を直接還元できるような仕事をしたいと考えたからです。薬学部を卒業した後、私は大学院の博士課程に進学し4年間を基礎研究に費やしました。基礎研究は大変面白く刺激的でしたが、研究を続ける中で私の行っている研究がどの程度社会の利益

になっているのだろうか、もっと医療に直接貢献できるような仕事はできないものかと考えるようになりました。その疑問を持ちつつ、大学院卒業後の進路を模索していたところ、参加していた学会で知りあった医師や薬剤師から東病院の薬剤師レジデント制度を教えてくださいました。医療・教育・研究の3本柱を業務内容として掲げている東病院では、医療者としての経験を積めるだけでなく、研究を通して医療の質を向上させるような仕事にも積極的にチャレンジできる環境があると思います。興味のあるかたは是非、一度見学に来てください。



国立がん研究センター東病院
濱田 祥之 (神奈川県出身)

大学を卒業後、総合病院で薬剤師レジデントとして2年間研修していました。研修の中で病棟業務を行い、肺癌や造血器腫瘍の患者を担当しました。抗癌剤による副作用や移植による合併症などで苦しんでいる患者の姿を目のあたりにしましたが、そんな患者に対して薬剤師として十分な介入ができず、癌領域に対す

る知識やスキル不足を痛感しました。がんセンター東病院の出身の先輩薬剤師から当院の薬剤師レジデントについて話を聞き、癌患者に対して薬剤師としてもっと深く関わっていきたくらいと思、当院のレジデントを志望しました。当院では様々な癌種や薬物療法に携わることができ、専門知識やスキルを伸ばすにはこの上ない環境です。癌領域のスペシャリストとして医療に貢献できる薬剤師を目指し、日々精進していきたいと思



国立研究開発法人

国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>